

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（ 杉の子特別支援学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす
(2)	育みたい 児童生徒像	・ 自立や社会参加をめざし、主体的に取り組む子ども ・ 自己肯定感や他者を思いやる気持ちが持てるなど、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	・ 特別支援教育の専門性が高く、子どものニーズや障がいの特性に応じた教育活動や地域支援を推進する教職員 ・ 対話・会話を大切にし、組織力の向上をめざす教職員 ・ 防災対策や・防災教育、人権感覚あふれる学校づくり等、子どもたちが安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教職員 ・ 関係機関と連携し、就学前から卒業後までの一貫した指導と支援を推進していく教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈児童・生徒〉 様々な体験や自立、社会参加に向けての教育 一人ひとりが活かされる仲間づくり 〈保護者〉 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参加に向けての教育 進路先の確保 〈地域の学校・関係機関〉 特別支援教育のセンター的機能	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 〈保護者〉 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育 〈地域の学校〉 交流を通しての共生・共学の理解と推進 地域の特別支援教育のセンター的機能 〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 情報提供や障がい者理解に向けた支援	連携する相手への要望・期待 〈保護者〉 目指す学校づくりへの理解と協力 〈地域の学校〉 交流を通しての様々な活動や体験 施設・設備の効果的な活用、相互利用の促進 〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 現場実習の受け入れ及び就労実現 職業授業への情報やノウハウの提供 放課後等の利用、卒業後の入所 就労や施設利用に関する情報の提供 社会活動への参加や進路先の確保、卒業後の支援
(3) 前年度の学校関係者評価等	・ 障害者差別解消法が施行になるので、これを機会に生徒の卒業後の選択肢が増えるとうい。 ・ 本校から分校への進学等に不安を感じる保護者がいる。連携・情報共有が進むとうい。 ・ 日々の業務が多忙だと思うが、人権推進計画の見直しは、ぜひとも推進していく必要がある。 ・ 引き渡し訓練等の参加が低いので、もっと保護者の協力が求められるようにPRして、訓練の参加率を引き上げる必要がある。 ・ センター的機能の充実で、地域の学校で全職員対象の研修会等を開催してほしい。	

(4) 現状と課題	教育活動	キャリア教育の視点に立った一貫した教育内容の充実や地域等と連携したキャリア教育を推進する必要がある。 大地震の発生が予想されることから、大規模災害に備えた防災対策、防災教育の充実を図る必要がある。 安全で、より良い生活を送るために必要な防犯教育や主権者教育を推進していく必要がある。 人権教育の視点で教育活動を捉え直す必要がある。
	学校運営等	本校と分校があり、本校には四つの教育課程があることから、本校・分校間や校内での連携や情報共有が必要である。 専門性の向上を図るとともに、特別支援教育におけるセンター的機能を果たす必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・キャリア教育の視点に立った計画的で一貫した教育活動と地域等と連携したキャリア教育を推進する。 ・大地震等を想定した防災対策、防災教育を推進する。 ・安全で、より良い生活を送るために、防犯教育や主権者教育を推進する。 ・人権感覚あふれる児童生徒の育成のため、人権教育を推進する。
学校運営等	・学校全体で情報や課題の共有を図り、学校の組織力を高め、問題解決に取り組む。 ・専門性の向上を図るため研修を推進することで、児童生徒のニーズに合った指導・支援を行うとともに、特別支援教育のセンター的機能を果たすため、地域の学校や関連機関と協働し、効果的な支援を高める。 ・学校運営の効率化を図り、総勤務時間の縮減に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○「キャリア教育の推進」	・中学部の校内実習を全学年1週間行う。(進路部) ・「杉の子キャリア教育プログラム」を活用した授業を全学部で実施する。(研修部) ・作成したシラバスをもとに、キャリア教育の目標との関連を検討する。(教務部)	・校内実習を行った後の、項目ごとの満足度が、60～90%で、来年度も同じ方向で取り組むこととなった。 ・11月12月に作成した指導案をもとに公開授業を行った。 ・キャリア教育の目標との関連を検討中。また、各学部・各課程のシラバスの統一を行った。	◎
○「防災教育の充実」	・児童生徒の防災学習(起震車体験含む)3回(各学期)、火災と地震を想定した訓練を3回、スクールバス引き渡し訓練を1回行う。(防災委員会、総務部)	・1学期は火災からの避難訓練、2学期は地震からの避難訓練、3学期には災害発生時の初期対応訓練を行った。避難訓練の事前学習として3回防災学習を行い、そのうち一度は防災ノートの一部を使用した。2学期初めには起震車体験と防災講話を行った。11月にはスクールバスからの引き渡し訓練を行い、三重大大学の川口准教授より講評をいただいた。3学期には災害用トイレの体験と非常食の試食を行った。また、日常的な	◎

		訓練として、杉の子タイム内で緊急地震速報への対応を練習している。	
改善課題			
○キャリア教育の充実 ・校内実習については、作業内容は今年のを踏襲することを基本にし、実習場所については検討する必要がある。(進路部) ・シラバスの小中高の統一を図ったが、今後もシラバスとキャリア教育の目標との関連を検討していく必要がある。(教務部) ・本校キャリア教育プログラムを意識した授業改善を行った。検討する過程で、キャリア教育プログラムの内容や項目を見直し課題も上げられてきた。委員会と連携して解決の方向に進める。(研修部) ○防災教育の充実(総務・防災委) ・災害用トイレの体験と非常食の試食は小学部B課程のみでの実施となったので、全学部に広げていく。 ・小学部B課程で行っている「だんごむしのポーズ」のような、日常的な防災訓練を学校全体に広げていく。 ・職員の防災意識の向上を図るために、職員研修で防災用品の使用法を周知したり、災害に対する理解を深めたりしていく。			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○資質向上の取組み	・情報研修会を5回実施する。(情報部) ・講師招聘研修会を夏季研修として2回行う。(研修部) ・専門性を学ぶ機会として草の実のPT/STを迎え年3回研修を行う。(研修部)	・校内情報研修会を5回実施。また、本校分校合同の情報研修会を夏季休業中に1回実施した。 ・夏季休業中に外部公開の研修(渡邊先生)と校内向けの研修(古川先生)を2回行った。アンケートの結果から満足度は高く、現場のニーズに適した内容であったと思われる。 ・年3回実施した。1学期は、児童生徒の実態把握と課題設定のために研修希望クラスが多かった。専門家によるアドバイスは、教職員の意欲向上とスキルアップに貢献している。	◎
○情報共有による組織力の向上	・進路部で本分合同会議を夏休みに1回程度行う(進路部) ・防災委員会を本分合同で行う。(防災委員会) ・教育部門別研修会を年2回行う。(研修部) ・学部たよりを学校全体で回覧し、情報共有を進める。(主事会)	・分校の進路主事、学部主事と本校卒業生の進路指導について適宜情報交換を行った。その結果、本校在校生に対しても情報提供できたことが多くあった。今後も引き続き連携していく必要がある。 ・本校分校合同の防災委員会を年間7回行い、スクールバスからの引き渡し訓練について、共通の認識を持って行うことができた。また、防災小委員会を3回行い、細やかな意思疎通を図ることができた。 ・教育部門に分かれて児童生徒について情報交換する研修を年2回(7月・12月)行った。 ・発行された後、速やかに他学部へ回覧した。定期的に情報共有できた。	※

	・各学部の校外学習を情報共有できる仕組みを作る。(主事会)	・月予定に実施される校外学習のグループや内容を掲載した。情報共有できる仕組みが定着した。	
○情報提供による信頼の構築	・学校ホームページを充実(学部ページを毎月更新・行事や分掌についても記事を依頼し更新)させ校内外へ情報発信を行う。(情報部) ・保護者進路懇談会を希望者に個別実施をする。相談後アンケートを取り満足度70%以上を目指す。(進路部) ・進路だよりを学期に1回発行する。(進路部)	・学部ページを毎月更新・行事や分掌についても情報の掲載を行った。 ・希望者を募り1人1時間程度の懇談会を行った。参加人数は36名。終了後のアンケート調査による満足度は100%であった。次年度も継続して取り組んでいく必要がある。 ・学期に1回発行できた。3学期も発行する予定。	※
○センター的機能の充実	・教育相談や就学相談など地域支援を行い、センター的機能の充実を目指す。(支援部) ・地域のニーズを大切にしながら、今年度も地域の学校や関係機関の方々を対象に、一日体験研修や杉の子実践夏季研修講座を開催し、満足度80%以上を目指す。(支援部)	教育関係者や保護者から、指導内容や指導方法、行動問題など、多岐にわたる内容で、支援依頼が多くあった。小中学校と連携し、支援課に報告しながら支援を進めた。その他、研修会の講師、出前授業、教材の貸し出しなどの支援も行った。 夏季研修講座 161 名参加。満足度93% 一日体験研修 37 名参加。満足度100% 満足度96、5%で達成。 また、地域支援として病棟サマースクールを行い、満足度100%であった。	※
○働きやすい職場環境づくり	・全体行事の見直し。27 年度見直しをした件について再度学期ごとに確認をしていく。(◎運営) ・学部の行事を学期ごとに見直す。(各学部・◎運営) ・仕事の進め方・内容を学期ごとに見直す。(各学部・分掌・◎運営) ・定時退校日を月1回設定することで、総勤務時間縮減の意識を高める。(◎運営)	・毎月の委員会で前月の行事について見直しを行った。 ・職員満足度アンケートをとり、仕事の進め方・内容の見直しを含む満足度の低い項目について委員会や職員会で検討した。 ・学部の行事について、各学期ごとにすべてを見直すことはできなかったが、行事終了後や年度末反省で見直しをおこなうことができた。(主事) ・仕事の進め方や内容について、学期毎に見直すことはできなかったが、年度末反省で課題として挙げ検討していく。(主事)	※

改善課題

○資質向上の取り組み

・渡邊先生の研修会でキャリア教育について学び、キャリア教育プログラムの観点を意識した授業改善を行った。学んだ内容が活かされているかどうかその方向性について来年度は、再度渡邊先生に来ていただき授業を見ていただく研修会につなげていく。(研修部)

・草の実の専門家による研修会は、好評である。希望者数が多くなっている所以来年度は来ていただく人数を増やすなどの依頼をする様すすめる。(研修部)

・教職員の I C T 能力向上に向けて合計 6 回の研修会を行った。今後とも I C T 機器の普及に伴い、さらなる I C T 能力の向上を目指し、研修を継続していく必要がある。(情報部)

○情報共有による組織力の向上

・分校の進路主事、学部主事と分校の進路指導について適宜情報交換を行った。その結果、本校在校生やその保護者に対して分校の進路指導や職業教育のシステムなど情報提供できたことが多くあった。今後も引き続き連

携していく必要がある。(進路部)

・本校分校の仕事の進め方が違い、共通の行事を進めるための摺合せに時間がかかるので、委員会、小委員会、電話、メール等で細かく意思疎通を図り、昨年より改善が見られた。しかし、文章になっていない部分の認識にずれがあったので、修正するために今後も頻繁な意思疎通が必要である。(防災委)

・学校研修目標の「一貫性」および「系統性」を具体的に実践するために教育部門別研修と名称を改め、同じ教育課程の児童生徒についてより情報共有ができるような研修会を目指し、B 課程については、分校との連携を進めるにあたって、授業実践を通じた交流を行ったので話し合いの土台ができ意見交換ができた。今後はさらにキャリア教育プログラムを一つの視点として話し合いを進める中で連携を深めていく。(研修部)

・月行事の備考欄に学部行事について記載することにより、所属学部以外の校外行事の日程等に関する情報が得られるようになったので、同じ目的地を設定した場合の細かな情報が共有できる仕組みを今後は検討していく必要がある。(主事会)

○情報提供による信頼の構築

・学校HPの充実に向けて、各学部月1回の更新や、文化祭等行事の情報などの掲載を行った。今後ともより一層の情報提供を図ることにより、信頼の構築を進めていく必要がある。(情報部)

・希望者を募り1人1時間程度の懇談会を行った。参加人数は37名となった。終了後のアンケート調査による満足度は 100%であった。次年度も継続して取り組んでいく必要がある。また、懇談会での内容や保護者の声を全職員に知らせていくことが必要である。(進路部)

・進路だよりについては学期に1回の発行となった。次年度以降はより多くの情報を保護者に知らせていくために、回数を増やしていく必要がある。記事の内容などについて、分掌会などで検討して行く必要がある。また、校内に掲示されている進路掲示板の有効活用についても考えていく必要がある。(進路部)

○センター的機能の充実

・来年度開校予定のかがやき特別支援学校と、小中高等学校、教育委員会との連携を強化しながら支援を進めていく。(支援部)

・通級による指導担当教員等研修講座で、参加者の満足度が高く、連携の必要性が感じられた。今後も通級による指導担当教員との連携を深めていく。(支援部)

・来年度も地域のニーズを大事にしながら、一日体験研修、夏季研修講座、病棟サマースクールを開催していく。一日体験研修は、特定日二日間の開催だったのを、希望者が参加しやすいよう、来年度は6月～11月の希望日に設定する。(支援部)

○働きやすい職場づくり

・昨年度に比べて、総勤務時間が増えたと感じている職員が多数いるので、仕事の分担担当の見直しを進め仕事の偏りが少しでも改善するように分掌業務等の見直しを行う必要がある。(◎運営)

・各学部とも行事が終わるごとに反省をおこなっているが、他の行事とのバランスを考えた見直しにまで至ることは難しく、年度末反省の時期に意見を出し合う形になっている。教員の多忙化・多忙感と係業務の量及び進め方には密接な関係があると思われるので、各行事の意義を再確認した上で、調和のとれた学部運営につながるよう、次年度に向けた行事の精選及び効率の良い仕事の進め方についての見直しを図る必要がある。(各学部)

5 学校関係者評価

明らかにった 改善課題と次へ の取組方向

- ・来年度は分校の「職業」のしくみが大きく変わるため、生徒及び保護者も不安があると想定される。そういった不安を払拭するためにも保護者等との情報共有を綿密に行ってほしい。
- ・児童生徒の卒業後の生活をふまえて、企業や福祉施設で働く（生活する）姿を想定して、日々の指導体制を考えてほしい。
- ・防災教育については、学校だけでなく、家庭でも取り組むことが必要であるとする

	ので、児童生徒が学んだことを連絡ノートや通信等で家庭に丁寧に伝えるなどの積極的な情報発信を行ってほしい。 ・教職員がゆとりのある勤務ができることが、児童生徒の成長にも有効であると考えるので、「ほっとできる場所や時間」に関する満足度が上がるように、いろいろな取り組みを考えてほしい。
--	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・キャリア教育プログラムを意識した授業改善を引き続き行うとともに、今年度の取り組みから明らかになってきた課題について検討を行う。また、知的部門のキャリア教育プログラムの小中高のつながりを意識した見直しをさらに進める必要がある。 ・防災教育においては、教職員の意識をさらに向上させるため、学部ごとの取り組みを全体のものに広げたりさまざまな想定での訓練を行ったり研修を今後も実施していく。また、保護者の意識を高め、家庭で被災した時も落ち着いて対処できるように学校での取り組みを通信等で発信していきたい。 ・下校時の災害対応訓練は、継続して取り組むことでスムーズに行えるようになってきたが、児童生徒の放課後の過ごし方の多様化に対応した訓練を今後も検討していく必要がある。 ・「命を大切に教育」等の新しい教育課題や生徒指導にかかわる問題も含めた道德教育の立案をし、様々な授業場面で、計画的に取り組んでいきたい。
学校運営についての改善策	・資質向上の取り組みとして、教員の専門性を高める研修を企画する。キャリア教育の視点で外部講師に授業を見てもらい助言をいただき日々の授業に生かしたい。また、校内研修を充実させ職員全体のスキルアップを図りたい。 ・今年度の職員満足度アンケートでは、多忙感、仕事の偏りが課題となった。来年度に向け、学校全体での業務分担の見直しを行ったので、今後はそれがうまく機能しているかどうかを確認しながら、さらに働きやすい職場となるよう改善していきたい。